

4月1日を新たな闘いの開始の日とせよ

日刊 動労千葉

87. 2. 19

No. 2481

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五六（公衆）〇四七二二七二〇七

2・10動労千葉団結集会の基調報告

新会社が定員割れであるのに、あえて行ったレッドページ攻撃に対し、全組織をあげて決然として立ちあがらなければならぬ。不当にもページされた仲間たちは職場で本心に組合員の先頭にたち闘いぬいてきた。この仲間達を全組合員の力によって絶対に守りぬき、清算事業団より奪還していく闘いに決起しなければならない。



「向いの中に団結がある」と力強く訴える中野委員長

直ちに闘いに決起せよ

本州の三会社、四国、貨物で定員割れのままいかざるを得ないという。希望退職という名の首切り攻撃などによって国鉄当局も思いもよらぬ事態が生まれた。しかし、彼らもこのままでは引き下らず、分割・民営化攻撃の最大の狙いをなんとしても貫徹しなくてはならないと「いわゆる不良職員」の何人かをレッドページすることを決定した。これが唯一、最後に彼らの執念としてやられようとしている。

動労千葉は、こんなことは許さない。清算事業団に行かされるわれわれの同志たちを奪還する闘争を今からやる。これから仲間を奪還する闘いを最優先でやらなければならない。

満身創痍となつて

分割・民営化攻撃は、国鉄再建でなく国鉄労働者の首を切り、労組をたたきつぶす、そこに最大の狙いがあった。これに立ちむかわない時に労組はガタガタになり、敵の思うままになつてしまう。「労組は闘う中こそ団結がある」という立場で二波のストを闘い、二八名解雇、多くの組合員が処分。傷をうけない組合員をみつげだすことが難しいほど満身創痍となつてやつてきた。だからこそ、動労千葉の団結を保持できたのである。

闘わなければ雇用は守れない

石炭・鉄鋼・造船・自動車産業で首切り、一時帰休が行われている。自動車総連の委員長は「わ

れわれのガマンが円高を招き、雇用不安につながるのである。何のガマンだ。ガマン、ガマンでこまねズミのように働き、ヘトヘトになつて首を切られるのではたまらない」と言っている。

労働組合、労働者は闘わなければ結局はこまねズミのようにこき使われ、ヘトヘトになるまでやられてしまう。いま国鉄の中でも雇用確保のためと松崎は同様のことをやっている。松崎や当局の甘言のつて一部の組合員で脱退し、直営売店などに行つた者はいまになれば損をしたと思つている。現情勢下ではビクビクしてはダメ、泰然自若として、心の中では不安かもしれぬが顔で笑つて労働組合に団結することが最も重要である。

敵は、「鉄道労連」の労使協調組合どころか、労働組合なんか認めない。「鉄道労連」は総評でも同盟でもなく、自民党を支持する「労働運動」を目標している。

労働者が同じ労働者に対して「首を切れ」と当局に要求する「鉄道労連」に労働者を守ることはできない。「直営売店」に行つた連中に「面倒見られるのは動労千葉だけ」「今までの非を認めて戻つて来い」とオルグをしなければならぬ。

四月一日をこえた継続した闘い

役員、活動家が火の粉を被りながら先頭になつて仲間を組織全体を守つてきた。今度は、組合員が役員を守るのは当り前の仕事だ。そのことが崩れた時には労組はやられてしまう。本心に組合員の先頭に立つて闘いぬいた仲間を守りぬく、奪い返す闘いは四月一日をこえて継続した闘いになる。

あわせて、中江選挙のトップ当選を勝ちとり、北原・市川・小川さんの当選を勝ちとる。

2・28 国鉄労働者全国交流会
2月28日（土）午後一時
お茶の水・第二電波ビル

◆訂正とお詫び
訂正とお詫びは二月十二日付の日刊動労千葉はNo.2476の誤りでした。訂正してお詫びします。